

発見!

熊野町の「工工」ところ。

シリーズ
第9回

全国各地にある名所や名物、もちろん熊野町にもたくさんあります。そんな町内に埋もれた、さまざまなモノ・場所などの「工工ところ」を紹介するコーナーです。今回は「萩原地区」からのレポートです。

か け 「石獄山」の名水 ～萩原から～

シリーズ9回目は、萩原の石獄(かけ)山への登山。名水というものの、どうやら山に登らなければ飲めないようである。というわけで、前回に引き続き続いて熊野の名水シリーズ最終回。

教育委員会発行の『温故知新』によれば、熊野の名水は4つあるという。シリーズ6回で掲載した「雲母の水」、前回の「空不動の水」、そして今回「石獄山の水」である。残念ながら、「ゆるぎ観音の水」は、現在は地下新幹線通過により枯れてしまったようである。



砂防堤の奥が石獄山

ふもとにある石獄山案内板から左の道を入り、東中学校を左に見ながら1kmほどゆくと、目の前に砂防堤が、そしてその奥に石獄山が現れる。朝日を浴びてなんとも美しい!右手、赤い鳥居が登山口。ここから山頂まで650mとの案内標識。さて、鳥居をくぐってよいよここからが石獄山への参道である。

雑木竹林を少し歩くと沢があり、ここには水が飲めるように沢にパイプが通してあり、コップも置いてある。



登山口の案内標識

である。とりあえず、軍手をはずして手を洗い、口をすすいで身を清めてみる。「安芸の国32番の観音札所」といわれる石獄山は、山全体が霊山として崇められてきた所で、その名のとおり参道に一步足を踏み入れると、荘厳な雰囲気になった聖域のようである。聞こえるのは、沢を流れる水の音と笹の葉のそよぐ音。沢を右手に参道を登っていくと、周囲には苔むした大きな石が多く現れる。石獄(カケ)山とは、大きな岩が多いからかな?そういえば以前に父が、小さな頃は黒水晶があったものだと話してくださったり、祖母が夢枕のお告げを聞いたおばあさんの話しをしてくださったことなどを思い出した。なるほど、この山にはさまざまな謂れがあるが、『ふるさと熊野』の中でも、「てるてる姫」という民話が伝わっているのを読んだことがある。働き者でなんでもできる女性に敬意をこめて「八手観音」と言ったそうである。

とたんに周囲が明るくなり始めた。「御神水」場に到着だ!ここにも水が汲めるように、いよいよ細くな

った沢からパイプが通してあり、井戸のようになっている。水はゆるると少量だ。横には、この「御神水」についての説明書きがある。この御神水は万病に効くが、特に火傷・内臓・眼病に効用があると記してある。不思議な働きをもつ水、霊水である。どれどれ、最近、近眼がひどくなり…そっと手にすくって飲んでみる。あらまー!目もパッチリ??



御神水



山頂からの風景

この先には観音堂があり、山頂から熊野盆地が一望できます。山々に囲まれた風景を眺めていると、改めて熊野の緑の豊かさに気付かされます。さて、名水をいただいでスッキリしたその目に熊野の風景を焼きつけてみるのはいかがでしょう?ふるさと風景が、新たに1ページ刻まれるかもしれませんね。

取材 伊藤真由美